

株式コード: 4700

2005年3月期中間決算説明会

2004年11月19日

株式会社 **アクセス**

05/3期の中間決算概要

 **Accès**

連結中間決算ハイライト

単位: 百万円

| | 04/3中間 | 04/3 | 05/3中間 |
|-------|--------|-------|--------|
| 売上高 | 717 | 1,452 | 1,340 |
| 売上総利益 | 31 | 120 | 621 |
| 営業利益 | 552 | 969 | 178 |
| 経常利益 | 557 | 995 | 150 |
| 当期純利益 | 569 | 2,709 | 43 |
| 従業員数 | 254人 | 226人 | 209人 |



連結中間売上高の事業区分別内訳

単位: 百万円

| | 04/3中間 | 04/3 | 05/3中間 |
|---------|--------|-------|--------|
| SI | 20 | 107 | 605 |
| AAAサービス | 3 | 17 | 36 |
| PLANET | 70 | 148 | 185 |
| AMO | 324 | 584 | 215 |
| ITO | 253 | 505 | 252 |
| その他 | 44 | 90 | 45 |
| 計 | 717 | 1,452 | 1,340 |

注1) SI: マイグレーションを含む

注2) AMO (Application Management Outsourcing): アプリケーション保守以外に、既存顧客向けの1億円未満の売上高の追加開発案件を含みます

注3) ITO (IT Outsourcing): ソフトウェア保守以外のシステム運用・保守



連結財政状態

単位:百万円

| | 04/3 中間 | 04/3 | 05/3 中間 | | 04/3 中間 | 04/3 | 05/3 中間 |
|------|------------|--------|------------|-------------|------------|--------|------------|
| 流動資産 | 2,520 | 1,298 | 3,539 | 流動負債 | 3,390 | 3,547 | 3,312 |
| 売掛金 | 147 | 218 | 638 | 固定負債 | 74 | 60 | 1,557 |
| 仕掛品 | 978 | 269 | 389 | 負債合計 | 3,465 | 3,607 | 4,869 |
| 固定資産 | 14,542 | 13,761 | 12,826 | 資本 | 13,597 | 11,452 | 11,496 |
| 資産合計 | 17,062 | 15,060 | 16,365 | 負債・ 資本合計 | 17,062 | 15,060 | 16,365 |



連結キャッシュフロー

単位:百万円

| | 04/3中間 | 04/3 | 05/3中間 |
|--------------------|--------|------|--------|
| 営業活動によるCF | 145 | 643 | 456 |
| 投資活動によるCF | 143 | 305 | 639 |
| 財務活動によるCF | 509 | 658 | 1,395 |
| 現金及び現金同等物 の期末残高 | 856 | 654 | 2,232 |



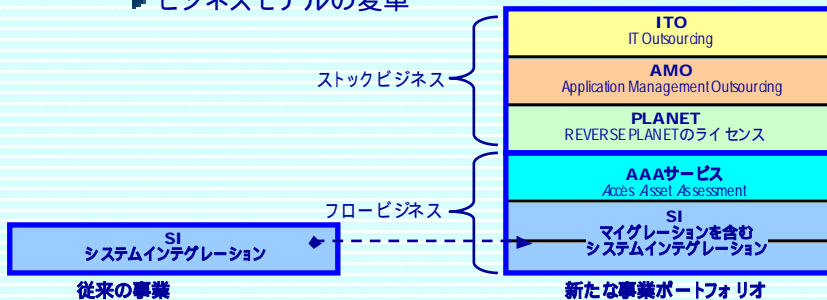
今後の事業展開



中長期的な目標と事業ポートフォリオ改革

■基本方針

- ▶ 中長期的な安定収益の確保
 - ▶ フロービジネスだけでなく、ストックビジネスの割合を拡大
＜本年度からの業績黒字化＞
- ▶ SI事業中心からストックビジネスを含む複合事業
 - ▶ ビジネスモデルの変革



経営改善策の進捗

■ 営業体制の強化

- ▶ 営業組織の強化
東京への営業要員シフト
- ▶ 大手Sierとの協業
AAA、PLANETを中心とした案件
- ▶ セミナー開催の強化
単独開催のみならず、日経BP主催等のセミナーへの参加
個別(会社ごと)体験セミナーの実施

■ 収益構造の強化

- ▶ コスト削減
システム開発の内製化を可能な限り実施
経費リストラによる効果(賃借料等)
- ▶ 財務強化
単身寮の売却
社債の発行

 今後も引き続き継続

市場ニーズ、顧客ニーズとしては

レガシーシステムの肥大化・老朽化からの脱却

- ▶ ビジネスニーズの変化
- ▶ コストの膨張
- ▶ 属人化の進行(2007年問題)

システム維持管理費用の削減
メインフレーム Open化

<IT予算の増大化に抑制>

 レガシーマイグレーション

「IT予算を削減して戦略的にIT投資を実現」

レガシーマイグレーションへの流れ

■ マイグレーションへの選択理由として

- ▶ 初期投資額の安価さ(再構築との比較)
- ▶ エンドユーザーへの再教育が不要
- ▶ 開発期間が約半分
- ▶ マシンスペックの向上(CPU能力、信頼性、セキュリティー)
- ▶ 維持管理費用の削減

■ 一方では消極的な意見

- ▶ 企業として
 - 一時費用等の負担は避けたい
- ▶ ハードメーカー
 - サーバーは信頼性が劣る
- ▶ SIベンダー
 - 再構築での提案
- ▶ システム子会社
 - 親会社からの売上(予算)が低下

顧客ニーズへのサービスメニュー

■ 実績に基づくサービス

▶ IT不良資産の削減

AAAサービス

- ・アプリケーション遷移サービス
- ・構造分析サービス

▶ 戦略的IT投資への対応

SI

- ・マイグレーション
- ・再構築
- ・Open化

▶ 維持管理費用の削減

PLANET

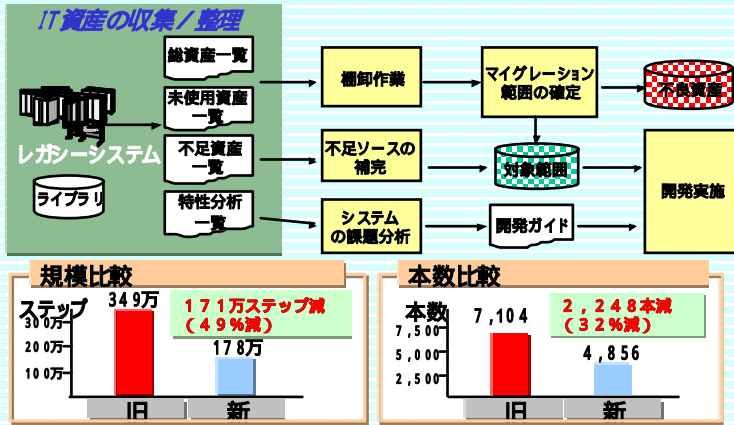
- ・REVERSE PLANET

アクセスの方向としては、市場ニーズに合致

アクセスの戦略的対応

■ まずは棚卸から

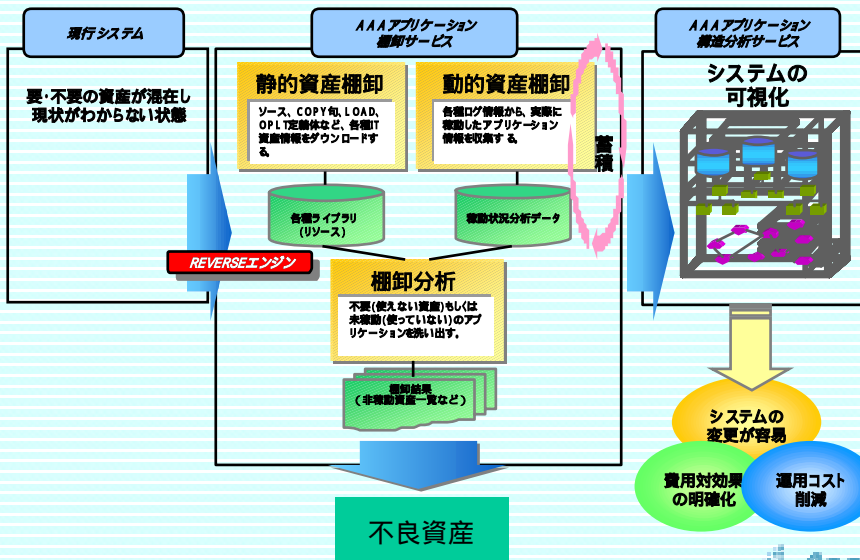
- ・ 棚卸は単に自社システムの現状把握だけでなく、マイグレーション費用やマイグレーション後のシステム維持費の削減にも欠かせない存在！



マイグレーションのコストは対象とするIT資産の規模に比例する。

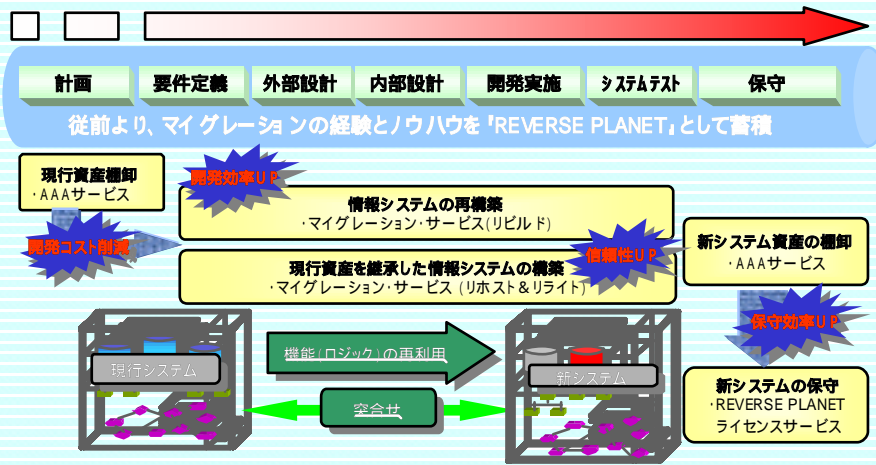
アクセスの戦略的対応

■ AAAサービスとは



アクセスの戦略的対応

■ 顧客にとって有益なIT資産の構築



05/3期の業績予想



連結業績予想

単位：百万円

| | 04/3中間 | 04/3 | 05/3中間 | 05/3E |
|-------|--------|-------|--------|-------|
| 売上高 | 717 | 1,452 | 1,340 | 3,250 |
| 営業利益 | 552 | 969 | 178 | 410 |
| 経常利益 | 557 | 995 | 150 | 350 |
| 当期純利益 | 569 | 2,709 | 43 | 260 |

 Accès

予想売上高の事業区分別構成

単位：百万円

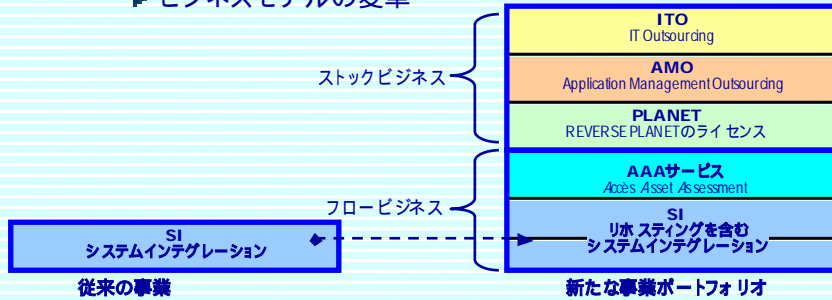
| | 04/3中間 | 04/3 | 05/3中間 | 05/3E |
|-----------------|--------|-------|--------|-------|
| SI (リホスティングを含む) | 20 | 107 | 605 | 1,730 |
| AAAサービス | 3 | 17 | 36 | 110 |
| PLANET | 70 | 148 | 185 | 395 |
| AMO | 324 | 584 | 215 | 420 |
| ITO | 253 | 505 | 252 | 510 |
| その他 | 44 | 90 | 45 | 85 |
| 計 | 717 | 1,452 | 1,340 | 3,250 |

 Accès

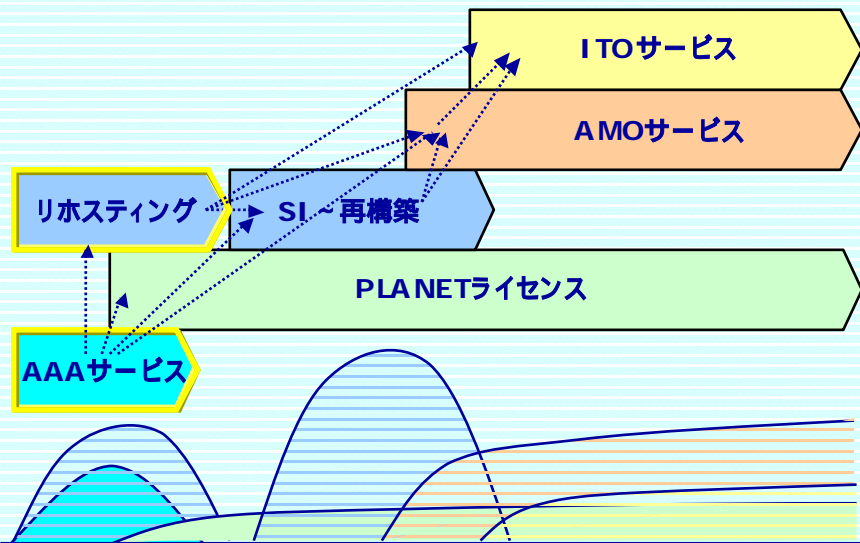
中長期的な目標と事業ポートフォリオ改革

■基本方針

- ▶ 中長期的な安定収益の確保
 - ▶ フロービジネスだけではなく、ストックビジネスの割合を拡大
<本年度からの業績黒字化>
- ▶ SI事業中心からストックビジネスを含む複合事業
 - ▶ ビジネスモデルの変革

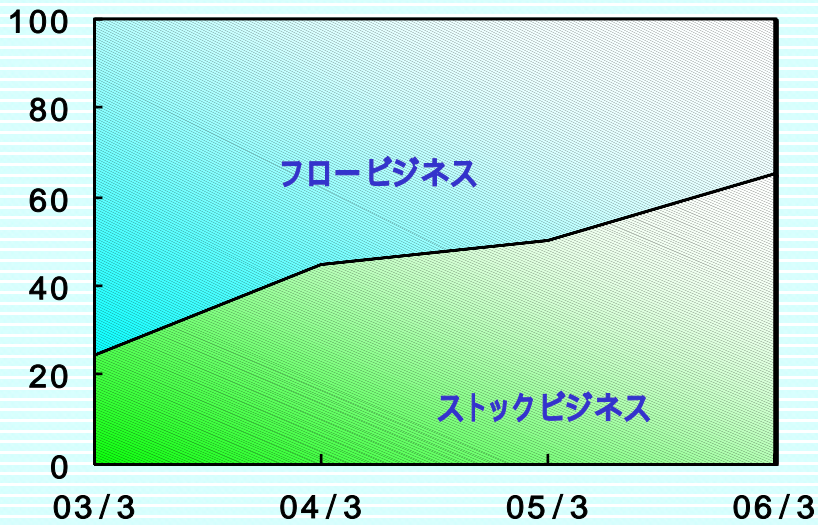


AAA、リホスティングからストックビジネスへの展開



事業ポートフォリオの変化: ストックビジネスへの展開

売上高の構成: %



Accès

付属資料

Accès

AAAサービス

- 他のサービスメニューに展開するエントリーポイントとしての重要な位置付け
- REVERSE PLANETをベースとするアクセス独自のサービス

■基本メニュー

- ▶アプリケーション棚卸サービス ▶不良資産を明確化・・・不良ソフトウェア資産を一掃することにより保守・現状把握費用を大幅に削減
- ▶アプリケーション構造分析サービス ▶最新情報から各種仕様ドキュメントを作成し現状システムを正確迅速に把握・・・影響分析費用を大幅削減、高品質を獲得
- ▶目的別影響分析サービス ▶目的に応じた精度の高い分析情報の提供・・・高品質を維持して対象案件に関わる構築コストを大幅に削減

■オプションメニュー

- ▶ソース・ダウンロードサービス ▶ソースのダウンロードを基本メニューとセットで提供・・・AAAの顧客側工数をアクセスが代行し顧客の負担を軽減
- ▶REVERSE PLANET体験サービス ▶REVERSE PLANETの実操作を通じて機能を把握・・・システム分析・保守の革新的な手法を経験



AAAサービスの実績と効果

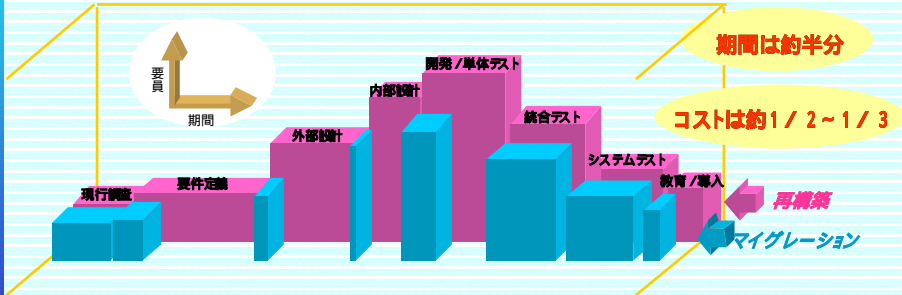
| | 棚卸前規模 | 棚卸後規模 | 削減率 | 目的 |
|----------|----------|----------|-------|--------------------------------------------------------|
| A生保 様 | 540万ステップ | 380万ステップ | 29.6% | Y2K時の事前棚卸 |
| B生保 様 | 600万ステップ | 250万ステップ | 58.3% | 未使用資産棚卸ではなく、再構築時における現行調査の対象範囲絞り込み(データベースに関わるプログラム群)の抽出 |
| Cノンバンク 様 | 20,558本 | 13,798本 | 32.9% | 3回分の定期的な棚卸のサマリー |
| Dノンバンク 様 | 349万ステップ | 178万ステップ | 49.0% | リホスティングのための事前棚卸 |
| D製造業 様 | 15,404本 | 3,578本 | 76.8% | メインフレームのリプレース時の事前棚卸 |



マイグレーションと再構築の比較

- ・ システム要件は現行システムから汲み取るため、設計工程が短縮される。
- ・ 現行システムの調査は再構築に同じ。（現行調査の重要度は再構築より上！）
- ・ ソースコードの変換を中心とする開発は頭数ではなく、技術と経験が重要視される。
- ・ テスト工程は再構築とほぼ同じ。
- ・ エンドユーザーへの再教育が必要ないため、導入はスムーズ。 = リスク軽減

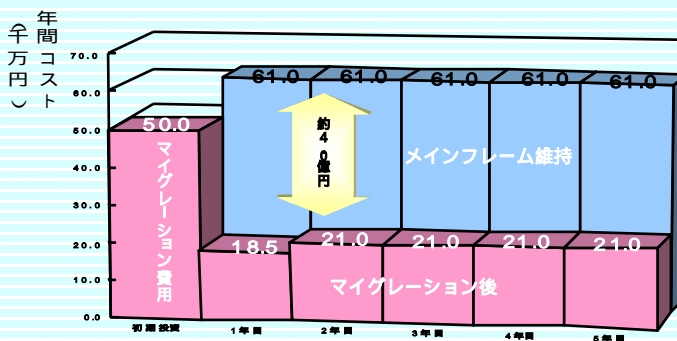
（再構築とマイグレーションの各工程別の比較（500万Step想定））



「早く」「安く」「拡張性のある柔軟なシステムを手に入れる」ことがポイント

マイグレーションの成功事例

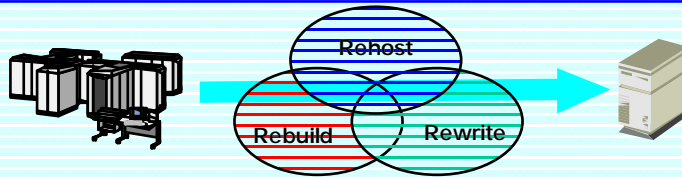
レガシーシステムから2年前に脱却した企業は、初期導入(マイグレーション)費用を2年で回収し、既に次の階段を登っています。



削減されたコストを利用し、新システム上で新商品&新サービスの取込を開発し、無事カットオーバーを終えています。

マイグレーション実行手段の選択

マイグレーションはシステム・インテグレイションの1つの手段であり、コストとリスクの観点から適材適所で合理的な手法を選択する。



| | Rebuild | Rewrite | Rehost |
|------------------------|---------|---------|--------|
| ビジネスロジック | 新規 | 継続 | 継続 |
| ソースコード | 新規 | 新規 | 継続 |
| 開発期間 | 大 | 中 | 小 |
| 開発コスト | 大 | 中 | 小 |
| リスク | 大 | 中 | 小 |
| ランニングコスト (対メインフレーム) | 小 | 小 | 小 |

PLANETとは

■ **DOA (Data Oriented Approach: データ中心アプローチ)の理論と手法に基づいて、ERD (Entity Relationship Diagram)やDFD (Data Flow Diagram)を用いて、データモデルとプロセスモデルの両面から分析・設計を支援するツール**

▶ FORWARD PLANET

▶ システム開発の流れに沿って設計開発の生産性と品質を向上

▶ REVERSE PLANET

▶ 既存システムの再構築のための分析の生産性と品質を向上

■ **リポジトリ(設計情報格納庫)による一貫した設計情報管理**

▶ 情報共有を行うことによって、情報間の整合性を常に検証しながら分析をすすめることが可能なため、作業の平準化、調査結果の共有により、高生産性と高品質を実現

▶ データ整理の方法、整理されたデータの格納方法、データの取出方法のそれぞれにアクセスの独自技術を採用

FORWARDとREVERSE

FORWARD PLANET

- ▶ 開発方法論と設計支援ツールが一体化した技術
- ▶ 要求定義段階でデータ項目を整理し、開発に必要なデータ項目を最小限に限定
 - ▶ 同名意義や異名同義の整理を含むデータの正規化、データとプロセスの整合性確保
- ▶ システムの流れやデータ構造のビジュアル化表現
 - ▶ お客様とSEとが明確な意味を持った言葉で設計情報を組み立て
- ▶ 項目や機能の漏れがなくなり、開発の手戻りや不明点の放置を大幅に減少

REVERSE PLANET

- ▶ システム構造を可視化する技術
- ▶ 従来は手作業で行っていたシステム構造の分析、修正にともなう影響範囲の調査、ドキュメンテーションを機械化
 - ▶ 構文解析、データスライシングなどの理論と手法を応用し、コンパイラに近い解析処理により、正確かつ迅速な分析結果
- ▶ 個々の命令単位、データ項目単位で解析
 - ▶ 大規模システムでもビジュアルでわかりやすい構造表現と影響分析
- ▶ 現在稼動しているアプリケーションのソースや定義情報をもとにデータ項目を収集し、その項目の背景にあるロジックを分析
 - ▶ システム上の項目に対して意味付けするのに有効

FORWARD PLANETとは

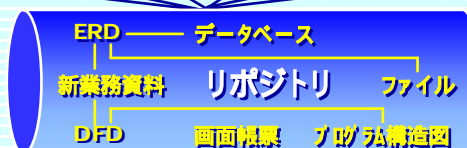
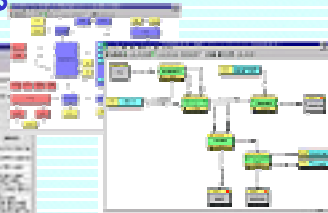
■ 開発工程に沿ったメニュー体系



■ 設計品質を高める多様な検証機能



■ 操作性に優れたグラフィカルなDFD、ERD機能



REVERSE PLANETとは

REVERS PLANETの機能

■ 構造分析

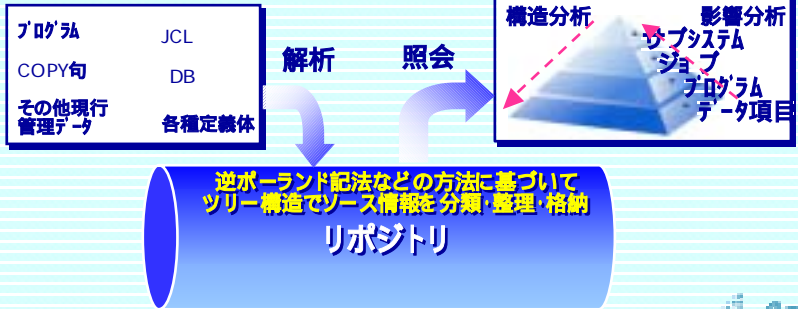
システム/サブシステムの括りから、ジョブ、プログラム、データ項目までシステム構造をシームレスにトップダウンの観点から把握

- ▶ PLANETエクスプローラー
- ▶ ジョブ前後関連
- ▶ ジョブフロー図
- ▶ ジョブグループスケジュール
- ▶ ジョブネットワーク
- ▶ レイアウトビューワ

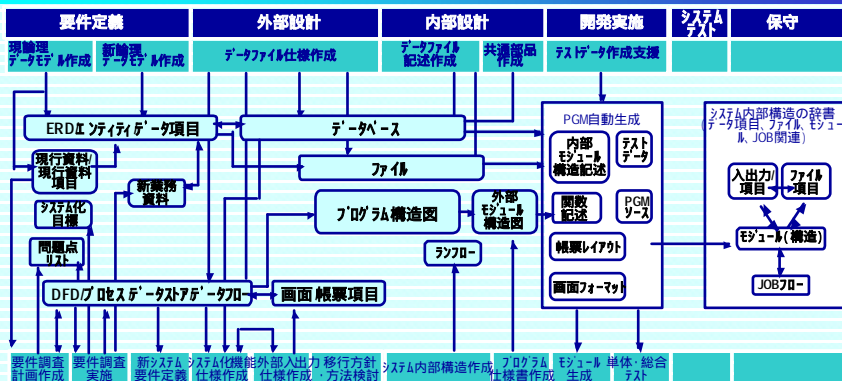
■ 影響分析

修正による影響範囲をボトムアップの観点から解析し、その範囲を正確に照会。

- ▶ PLANET影響分析
- ▶ 入出力マトリクス分析
- ▶ サブシステム間関連分析
- ▶ データ項目リファレンス
- ▶ データフロー分析
- ▶ ロジック分析
- ▶ 一括ロジック分析



PLANET: FORWARD+REVERSE



The System Design Enterprise

